

2015 - 16 年度 RI テーマ



世界へのプレゼントになろう

Rotary International
国際ロータリー会長
K.R. ラビンドラン



四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

ベテランと若手の団結で
品格あるロータリー活動を!

第2660地区
八尾東ロータリークラブ
YAO EAST ROTARY CLUB
●創 立：1973年2月23日
●会 長：上田 郁生
●幹 事：上山 惣太
●会報委員長：堀内 伸也

今週のプログラム

第2087回例会

- ① 開会 点鐘
- ② ソング 「我等の生業」
- ③ ビジターの紹介
- ④ 会務報告
「会長の時間」「幹事報告」
- ⑤ 委員会報告
「出席報告」「各委員会」「ニコニコ報告」
- ⑥ 卓話「次年度の為の地区協議会報告②」
大松 桂右次年度職業奉仕委員長
堀内 伸也次年度社会奉仕委員長
高岡 正和次年度青少年奉仕委員長代理
- ⑦ 閉会 点鐘

来週の予定

*4/29(金) 法定休日による休会

*5/6(金) 定款による休会

第2088回例会 5月13日(金)

★例会前：5月度定例理事会

☆5月誕生日祝

松本会員、高岡会員、安田夫人、山本事務局員

☆5月結婚記念日祝 武田会員

☆卓話「次年度の為の地区協議会報告③」

中澤 剛会長エレクト

高橋 広一次年度幹事

山田 哲男次年度クラブ運営委員長&SAA

***活動計画書提出 〆切日!!**

*5/13(金)

①八尾市内8クラブ交歓会

(ホスト：八尾菊花ライオンズクラブ)

於：料亭 山徳

会 議：18:00~18:50

懇親会：19:00~21:00

上田会長・上山幹事

中澤会長エレクト、高橋次年度幹事 出席予定

②2015-16年度クラブ職業奉仕新旧委員長会議

於：薬業年金会館 601号室

登録 18:00~ 会議 18:30~20:30

大松次年度職業奉仕委員長 出席予定

前週の例会記録

2016年4月15日(金)

出席報告

例会数	会員数	出席数	出席率	備 考
第2086回	28名	17名	65.4%	出席義務免除 4名(出1)
第2084回	28名	21名	84.0%	補 填 1名

ニコニコ箱

●地区協議会報告、各委員長の皆様、よろしくお願
いします。 上田 郁生会員

●次年度委員会よろしく! 鈴木 洋会員

●本日の卓話、協議会報告宜敷くお願いします。
森下 慶治会員

★例会場：(株)西武百貨店八尾店8階バンケットルーム TEL:072(997)0111 内線5580 ★例会日時：毎週金曜日12時30分

★事務所：〒581-0803 大阪府八尾市光町2丁目60番 西武百貨店内 TEL:072(997)0626 Fax:072(997)2620

★http://www.yaohigashi.org/ E-mail:yaohigashi@japan.email.ne.jp

●次期計画立案の委員会よろしくお願ひします。

山田 哲男会員

●今回合計 5,000 円

●累計 662,794 円

会長の時間

昨日、四和会に出席してまいりました。大阪柏原ロータリークラブさんより、IMロータリーデーのお礼と報告がありました。IM4組の出席率が55%もあり、他の組に比べて断然高く、「4組はロータリー意識が高いと感じられる。」と喜びの報告がありました。

他のクラブからは、地域に根付いた活動ができないものかと相談もありました。横との連絡を取り合い、もっと早くから行動していれば、解決策もあったのではないかと反省しています。

年度末も近いということで和やかな雰囲気では進みましたが、八尾東ロータリークラブは、年度末ギリギリに大きな奉仕活動である「アールブリュット」が控えています。

最後まで気を抜かずに頑張っていきたいと思いません。

幹事報告

①今週からの「次年度のための地区研修・協議会報告」の卓話は卓話時間を少し短くし、その後、次年度の各委員会を開催していただきますので宜しくお願いします。



卓話

「次年度のための地区研修・協議会報告①」

国際奉仕部門

次年度奉仕部門担当理事

鈴木 洋会員



今回の地区研修・協議会は中澤会長以下10名のメンバーで参加しました。何よりも感動したのは、全体会議基調講演でした。池間哲郎氏の「日本はなぜアジアの国々から愛されるのか」講演は、彼のボランティア実体験を中心にしたもので、我々ロータリアンがやるべきことを彼が先駆者として実践している素晴らしい内容でした。カンボジアの地雷で手足を失い絶望的な生活をしていた女性と約束した施設を完成させ、その後彼女は結婚し幸せな生活をしている事例には涙が出ました。又欧米の国々に植民地にされたアジアの国々を日本がインフラ整備し教育に力を入れた。そのことで今も感謝されている事実を聞き感動しました。最高の基調講演でした。

国際奉仕部門の協議会

- 1 1時間半の協議会の大半を財団補助金の説明と補助金を使った奉仕事例紹介に使っていました。
- 2 国際奉仕の本質論とか世界の国々でどんな奉仕が求められているか等の協議も必要と思いました。
- 3 次年度八尾東の国際奉仕事業では時期の関係で残念ですが財団補助金は使えません。

ロータリー財団部門

次年度R財団委員長

森下 慶治会員



2016-17 年度財団目標

1. ロータリー財団に対するロータリアンの知識、参加、寄付を向上させる。
2. 永久にポリオを撲滅する。
3. 財団の補助金と6つの重点分野を通じて、ロータリーの人道的奉仕の質と影響を高める。
4. 「世界でよいこと」をしてきた100年の歴史における財団の功績、特にポリオプラスの効果に対するイメージと認識を高める。

ポリオとは？

- ・ポリオ=急性灰白髄炎、小児麻痺（5歳以下の子供に多発）
- ・脊髄神経灰白質が侵され、四肢の急性弛緩性麻痺を引き起こす。
- ・呼吸器系の運動麻痺が起こると死亡にいたることもある。
- ・治療法はなく、ワクチン接種による免疫抗体を受動的に獲得しておくのが最善。

プラスとは？

はしか、ジフテリア、結核、百日咳、破傷風（子供が感染し発症。致死率が高い）はワクチン投与が望ましく、ここにポリオが加わった。（足された）

ポリオ撲滅活動で得た手法や経験が、驚異的な感染症拡大防止にも役に立つとのことを意味するプラスになった。

ポリオワクチン投与と同時にビタミンサプリメントを配布し、健康増進を図ることや蚊帳を配布するなどポリオワクチンの運搬、保存等のための新しい物流方法やネットワーク、サーベイランスなど。

2016-17 年度 日本の寄付目標 (1)

●年次基金

・一人当たり 150 ドル（日本全体約 1350 万ドル）

2660 地区=160 ドル

・全てのクラブが寄付をし、寄付ゼロクラブをなくす。

・ポール・ハリス・ソサエティ（PHS）の推進

●ポリオプラス基金

・一人当たり 30 ドル（日本全体約 270 万ドル）

2660 地区=60 ドル

●恒久基金

・各クラブでベネファクターまたは遺贈友の会員 1 名増

2016-17 年度 日本の寄付目標 (2)

●大口寄付

・寄付の種類にかかわらず、1 万ドル以上の寄付を各ゾーン 25 件（日本全体で総額 100 万ドル）

●地区の D D F の寄贈

・ D D F の 20% をポリオへ寄贈

・ロータリー平和センターへ寄贈

* D D F の 20% をポリオプラス基金へ寄贈した地区と 1,500 ドル以上の寄付をしたクラブには、財団から感謝状が贈られる。

●ロータリー財団 100 周年について地域社会の人々に知ってもらうイベントを開催。（ポリオの周知を図る）

米山奨学部門

次年度米山奨学委員長

桑田 タア子会員



ロータリー米山記念奨学事業とは、日本のロータリーの創始者と呼ばれる米山梅吉氏の功績を記念して始めた国際奨学事業です。国内の

全ロータリー地区の合同事業に発展したもので、60年の歴史をもつ日本のロータリー独自の国際奨学事業です。1967年文部省の許可を得て、財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されました。その後、新公益法人制度が施行され、2012年「公益財団法人ロータリー米山記念奨学会」としてスタートしました。

日本に在留している外国留学生に対し、日本全国のロータリアンの寄付金を財源として、奨学金を支給し、支援する民間の奨学団体です。平和を希求する日本を、世界に理解を深めるために、多くのアジア留学生に平和日本を肌で感じ、将来、日本と世界とを結ぶ「架け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成する事が目的です。

留学生への支援は未来に向かって平和の架け橋をかける、尊い奉仕活動です。

年間700名以上の奨学生が採用されています。2016年の留学生支援者数は751名、うち2660地区受入れ数は31名15ヶ国の奨学生を受け入れています。国内では民間最大の国際奨学事業です。

米山記念奨学事業の運営資金は全ロータリアンの寄付金で運営されています。次年度松本ガバナーの活動・運営方針で、「米山奨学事業への寄付金」は、一人当たり30,000円に設定されています。

次年度より「複数世話クラブ制度」の試行と「複数カウンセラーの推奨」されています。2016年度32クラブに31人の奨学生を受入しています。

寄付目標を（地区方針として）設定しています。「普通寄付金」と「特別寄付金」の2種類があります。普通寄付金は、半期に一度、決まった金額の寄付（5,000円）、特別寄付金は、任意で頂くご寄付で、個人寄付・法人寄付・クラブ寄付の3種類があります。

特別寄付には表彰制度があります。累計10万円で第1回米山功労者となります（以後、10万円ごとに表彰）累計20万円から90万円まで、第2～9回米山功労者マルチプルとなります。累計100万円で、第10

回米山功労者メジャードナーとなります。表彰されます。

すべての寄付金に税制優遇が受けられます。税制優遇は、従来、特別寄付金のみが対象でしたが2012年度より普通寄付金にも申告用領収書を発行できます。

米山学友会とは、学友と現役奨学生によって組織される米山記念奨学生の同窓会組織です。これまで17,000人もの優秀な学友を世に送り出してきました。ロータリー精神に触れ、心を育んだ米山学友は、母国に戻ってその発展に尽くす人、母国と日本の架け橋となり活躍する人、世界平和と国際理解のために貢献する人など、米山学友はさまざまな活躍をしています。米山記念奨学事業は、まさに国際奉仕活動といえるでしょう。

クラブ研修リーダー部門

次年度会員研修・

情報委員長

上田 郁生会員



ロータリーでいう「研修」は人、殊に素晴らしいロータリアンを育てることであり、更に一人一人のロータリアンの成長をサポートすることです。一人一人のロータリアンの成長は現在のクラブを支える活力となり、明日のクラブを創るための源となります。

会長ならびに理事会メンバーは研修の重要性を認識し、研修をクラブ運営の重要な施策として位置付けなければならないという認識の基、各クラブの研修リーダーとの部門会で話し合いを進めました。各クラブとも特に堅苦しい研修は行っておらず、何もしないというクラブもあり、ベテラン会員と若手会員の語り合える場を設けて「研修」としているクラブがほとんどでした。

当八尾東ロータリークラブも一泊旅行を含め、もっと積極的に会員同士が語り合える場を多く設けるように務めたいと考えております。